

6. 「かな」はどう教えたらよいか

小学校に進むまでには、かなも一通り読めるようにしてやる必要があります。今の小学校では、かなが一文字も読めないような状態で就学したら、一学期の学習は大変苦しいものになります。

かなは表音文字ですから、石井方式では、その本質に叶った使い方、これを学習させます。

「お爺さんは、山へ柴刈りに行きました」のところで、

行かないよ 行きました 行くこと 行けばよい 行こうよ

という変化を通じて、「かきくけこ」を学習させるのです。私は指導主事をしていた時、小学生が「行」は「い」という字だと答えているのを聞いて驚いたことがあります。そういう教え方をしている先生が多いのです。

「“行”は“いく”という言葉を表した漢字だ」と教えなくてはいけません。ただ、この言葉は、「牛」「馬」と違って、「いか」と読んだり「いき」と

読んだりするので、変化する「かきくけこ」を付け加えるのだ、ということを理解させるのです。

もし「行ないよ」と“か”が抜けていたら、「いかないよ」と読んで、「い
ないよ」などと読まないように教えなければいけません。今の中学校
でも、「行ないよ」を「いないよ」と読む生徒がかなりあるのではないで
しょうか。

コ ラ ム

部首 青

青が本字で、生と丹の合字。丹石から赤色の染料をとるが、同時に青もとれるので、あかを丹といい、あおを“丹より生ずる”という意味で“青”とし、発音は、“生ずる”のセイを取った。あかとあおは色の基本なので、絵の具や絵のことを「丹青」と呼ぶ。

【清】 水の青くすきとおって見える状態のこと。

【晴】 青空と日とで“はれ”の意味“すぐれた状態”なので、“青”は“すぐれて良い”という意味を持つようになった。

【情】 心のすぐれた状態。

【静】 争いを“しずめる”ことから、“動かない”“しずか”。